

創業七十周年記念公募

阿藻珍味で想い出す

珍

しい話

あんなこと

味

な話

こんなこと

PART 2

刊行にあたって

二十年前、創立五十周年の折に記念として公募いたしました阿藻珍味にまつわる想い出綴、「阿藻珍味で想い出す珍しい話 味な話」で多くのお客様よりいただいた想い出の数々に感動し、そして責任の重さを痛感したことを鮮明に覚えております。

弊社は多くの方々に支えられ今年八月二十二日で創業七十年を迎えます。この期に想い出綴PART②として、再度公募させていただきます。前回にも増して今回も多くのお客様よりご応募いただきました。

時代と共に変化した商品と合すように、内容も興味深く、驚きながらの編集作業でした。干物から練りもの・チョイ干へ。そして、ラーメン。今やお菓子までも販売している。そんな変化する中であって、変わらぬお客様の声は「あてにしているぞ!!アモチンミ。」でした。

激変する時代の中にあって、このお客様よりお寄せいただきました想い出の数々を糧に精進を重ねる所存です。

多くのご応募誠にありがとうございました。

紙面の都合上、割愛させていただきました事、お許しください。

思い出

七年前の五月、幼児二名・小学生五名・大人六名で店に行きました。前日より竹輪づくりを楽しみにしていました。手洗い、腕の服を上げ、幼児は椅子に上り、みんなじっと見つめて。勉強の時と顔が違いました。

幼児は竹にすり身がつかず、涙目でがんばっていました。店員さんが姉上より大きな竹輪にと手伝ってくださり、ホッとしました。

焼き上がった竹輪を見てみんなびっくり。

おいしい、おいしいと大口をあけ、かぶりついて食べ、腹一杯と疲れた様子。ラーメン食べる？ イラナイ・・・。

親たちは干物・その他の土産を求めて帰りました。

先日、十五歳前後の孫たちが集まり、その時の思い出話をして大笑いしてましたので、私(七十七歳)は思い出に残って良かったとうれしく喜んでいきます。

現在でも竹輪づくりはあるのでしょうか。私も体験したいです。

M・T (福山市)

ちくわにぎりの思い出

義母、実母は二人とも杖をつきながらだったので「車で待つとるから買ってきて」と言っていました。でも孫たちに一緒にやりたいとせがまれ、「よっこらしよ、行くだけ行ってみようか」と体験できる所までついてきてくれました。

ちくわにぎり体験が始まると、まあびっくり！二人とも上手。孫に「力を入れすぎとるよ。」「こうして、こうして・・・」と杖は立てかけたまま、楽しそうにちくわ(すり身)を竹でできた芯にきれいにくつつけ、笑顔満面です。

焼き上がりを持ち帰るのかと思いきや、車の中でホクホク食べ、「さすが、おばあちゃん達の作ったのは、かっこええ!!」と孫に言われ「何もつけず、いくつでも食べれるわー」と『行きはよいよい、帰りはニコニコわいわい』でした。

二人の母とちくわをにぎりに行くことはもうできなくなりましたが、あもちんのちくわは、おいしい味と幸せな味をいつも一緒に運んでくれます。

S・M (福山市)

握り竹輪体験

初めて私が鯛匠の郷を訪ねたのは彼此もう十数年も前のことになるのか？ 輻の狭い道で対向車が来る度にヒヤヒヤ、ドキドキしながらまだかまだかと不安にかられながら、やつの思いで“鯛匠の郷”の看板を目にした時の安堵感は今も忘れられない。

丁度昼食時間で食堂は満席。席が空くのを待つて、試食で味をしめたチイチイカの天ぷらと尾道ラーメンで身も心も満足させたあと、丘の上のつととギャラリーを心ゆくまで鑑賞したあとギャラリーからの眺望を楽しむ。

いよいよ待望の握り竹輪体験。空想と実際の隔りは可成り大きく、親切丁寧に指導を受けたにもかかわらず作品は個性豊かなものばかり。しかし、形はどうであれ自分の握った物は一味違った感動があるもので、焼き上がった品を受け取った時のあの温かい感触と何とも言えない香りは嗅覚と食欲をいたずらに刺激して、帰宅を待たず、車の中でかぶりついた時の味は忘れられない。

この経験がやみつきになり、広島県健康福祉大学校十六期会のおふるさと探訪の中に組み込んだり、遠来のお客様を何度か招待し、皆さんその度に大いに喜び満足して帰って行ったおかげで、今尚会う度に阿藻珍味のギャラリーや握

り竹輪体験の話に花が咲き、時間の経つのも忘れてしまう始末。

今は、アツシー君であった連れ合いが居なくなつて鯛匠の郷を訪ねるチャンスもなくなつてしまつたが、我が家には焼きせんべい体験をした時の軍手が思い出の品として大切に保管されている。

F・K (福山市)

物々交換

尾道ラーメンを札幌の出張の折におみやげとして持つていつていました。取引先の社長に毎回おなじみでした。

そうすると必ず帰る時に、その社長はお返しにと味噌ラーメンを手渡してくださいませ。

それが恒例となり、出張のたびに尾道ラーメンと味噌ラーメンの物々交換。

その会社とは非常に大きな取引をさせていただきました。これは、尾道ラーメンが結んでくれた縁だと感謝しています。ありがとうございます。

M・K (福山市)

こんにちわ！

阿藻珍珠さま 八月二十二日 創業七十周年とか、本当におめでとうございます。

実は私も来月十四日、何と！七十歳になります。

古希です。体はコキコキとうなっております。

今回パンフレットを読んでいて、この七十周年に目が・これは自分と同じだ。何か書かずにはおれない気持ちになりました。嬉しいです。

阿藻珍珠さんとはながーい付き合いです。年月日はすっかりと忘れていますが、ちくわ体験にも行きました。自分で焼いたちくわは格別な思いがありましたね。出来立ては特に美味しい。形が歪んでも平気。うまければ。

会社の近所に神辺店があるのでチヨイチヨイ再々お邪魔しております。スタッフさんとも顔見知りになり、楽しいランチや買い物をしています。どのスタッフさんも気さくで長いお付き合いです。スタッフさんが長く勤めておられるというのは阿藻珍珠さんの魅力です。ランチに出してもらうイカの塩辛大好きです。塩分控えめでとても美味しい。ちーいかの天ぷらも外せないですね。魚料理は作るのが下手で上手くできない。そんな時は、特に煮魚が大好きなので煮魚定食にレッツゴーです。

そうそう、鞆にあった今もあるのでしょうか。社長（会長）さんが描かれた絵を飾っておられましたね。記憶が曖昧ですが色々と思いい出しました。ありがとうございます。

T・T（福山市）

思い出

鯛匠の郷・喫茶コーナーでコーヒーを頂きながら眺めた鞆港の絶景！

備前焼の窯のすぐそば、満開の桜木の下でさせて頂いたお花見。

和服ですごく格好よかった今は亡き、世話好きな阿藻實會長のお姿を懐かしく思いい出します。

絶品はちーいかの天ぷら、ししゃも天。たこわさも大好きです！ 盆・正月・ゴールデンウィークに孫たちが帰省した際には必ず土産として、さんすて福山店で購入して持ち帰らせています。

今後とも益々・ずつとずつと“阿藻珍珠”の繁盛を祈っていますよ！

H・N（福山市）

からし天

福山に引越してもう二十四年が過ぎました。私の生まれた福島で過ごした年月を越えてしまい、すっかり福山の人になりつつあります。

初めて阿藻珍味さんのかまぼこを土産にして、かれこれ二十四年位。あまりほめない父ですが、からし天がひどく気に入る「うまいな」と喜んでいました。何回か送ると、東北には宮城のかまぼこがありますが、父曰く「これ食ったらかまぼこは食わんともいいな」（方言ですね。要するにかまぼこよりうまい）と何度も聞かされました。

その後いろいろな注文があり、竹輪よりからし天、がす天を多めに入れてくれなどと・・・よっぽど気に入ったようで、絶対喜んでもらえるのが分かったので毎年送らせてもらってます。一緒に二人の兄にも。皆喜んでくれてとても良いおくりものです。

最近、宛名が印字された用紙も郵送してくださるので、手間も省け、忙しくて店に行けなくてもFAXで頼めると、いたれり尽くせりで、父が行き来しているうちはずっと送ってあげるつもりです。

おいしいからし天。からし天だけのものでもいい位ですが（笑）。まあ、そうはいかないでしょうが、これからもか

らし天、よろしくお願ひします。

T・Y（福山市）

尾道ラーメン

以前より阿藻珍味さんの尾道ラーメンが大好きで、いつもお取り寄せで買っていました。

ご縁あって、尾道を旅することとなり街を散策しました。尾道は尾道ラーメンのお店であふれていました。しかし、阿藻珍味の尾道ラーメン店がない。観光パンフレットで調べてもお店がない。

ネットで尾道ラーメンを調べてみるとウイキペディアに、尾道ラーメンのルーツのひとつが阿藻珍味と書いてありました。尾道でない福山市の浦の阿藻珍味が一九九〇年代、お土産用につくったそうでした。だから尾道にないのかとガッテン！

阿藻珍味さんの尾道ラーメンは食べられなかったけれど、尾道を満喫。話題の美術館の猫ちゃんに偶然にも会えて、最高の尾道散策でした。

I・S（広島市）

満足とラッキーの日

大好きなピリ辛ごぼうを売っている阿藻珍珠松永店へ、入仏式の志を買いに行った時の事。品物と渡す人の名前の確認作業で私の頭の中はいっぱい。店員さんはせつせと詰めて、達筆でのし紙を仕上げてくださいました。墨で一枚ずつ書かれています。包み終わった品物、

「これでいいですか？ 袋に入れますが」

「なんかちよっと・・・」

「この風呂敷はどうですか？」

「あー良いですね。風呂敷に包んで下さい。」

終わった安堵感と満足感で車を運転して帰っている途中、

しまった!! スタンプ押しもらったのを忘れた!

引き返すのには遠い。年金生活の私、ガツカリ。しかも

今日はいつもより、ずーとたくさん買い物したのに。仕方

がない、こんな日もあるわ。

一週間ぐらい経ったある日、妹の用事で松永店へ行きま

した。入るとすぐに、

「先日、志をお求め下さったお客様ですよね。」

「はい。」

「ごめんなさいね。あの時スタンプを押すのを忘れて、今

日カードお持ちですか？」

「カードは有りますがレシートはありません」

「大丈夫です、メモしておきますから」

えー！こんなことあるの？ ラッキーラッキー。

几帳面な店員さん、お心配りありがとうございます。お陰さまで心に残るサービスで、入仏式を終える事が出来ました。

M・M (尾道市)

天井

大学生で東京に住んでいた息子。

福山駅に着いているはずなのに、なぜか我が家に帰って

こない。尋ねてみると、毎回、阿も珍の「天井」を食べて帰っ

ていたそうでした。

「天井」はふるさとの味なんでしょうね。それを食べると

帰ってきたとの安堵感があったのでしょうか。

帰ってくる息子に手づくりの料理でと待っていた私。故

郷の味をはやばやと食べて、満足そうに帰ってくる息子。

複雑な母の心境でもあった、十数年前のお話です。

N・Y (福山市)

アモチン

四十年前、福山に職を得た私は、仕事帰りに利用する福山駅構内でシシャモ天と鯛のにぎり竹輪をよく買って電車で四十分かけて通勤、帰宅し、家族へのお土産として皆んなで食べていました。

その私は結婚し、関東に住む親族ができ（主人の自家）、いつも何かにつけては、お土産としてシシャモ天と鯛のにぎり竹輪を持参したものです。「阿藻チン」と言って喜んでくれました。

その輪がどんどん広がり、今では子供達が結婚し、お相手のファミリイまでもシシャモ天と鯛のにぎり竹輪が大好きです。

そのうち私共に孫ができ、四世代で「アモチン」と言いながら練り物をほうばって、シシャモ天と鯛のにぎり竹輪の味を受け継ぎたいと思っています。

わが家には、おじい様（会長様）の書「無我」と書かれたご立派な掛軸が床の間に掛けてあります。阿藻實様の名を見るたび、お元気がしらと思ひ出します。

アモチンミ。

ずっと、この味が続きます様に願っています。

S・T（福山市）

ししゃも天の思い出

川崎から転勤で福山に来て、早いもので半世紀以上になります。その間、十年の内、それぞれの両親や兄弟が七人も亡くなりあわただしく帰省したものです。

福山の土産に鮮度の良い魚のすり身の中にししゃも卵が入った、いつ食べてもおいしいプリプリしたししゃも天を駅構内で買って持ち帰りました。

半分に切って出し、「そのまま食べてもいいよ」と言っても誰も手を出してくれませんでした。変な白い物とは思わなかった様でした。

東京の姪が最初に手を出して「おいしい。みんな食べてごらん」と言ったので、「私も」「私も」となって、あつという間になくなってしまいました。

それからは東京にはないので、名指しで「ししゃも天」と言ってくるので、盆暮以外のお返し品や、時々いろいろな手作り品が届くので、そのお返しに利用してました。

先日も天満屋や美術館へ行く機会があったので、プレゼント交換のハガキを持ってししゃも天を買ってきたばかりです。

A・H（福山市）

伊勢エビ

二十九年前の社長さま、お元気で活躍されておられませうでしょうか？

お友達からの伊勢エビが、阿藻珍味さまから送られて来ました。胸を踊らせて開けて見ると、立派な伊勢エビのヒゲが一本取れていました。

同封のがきでこの事を悲しく思い、書きました。

数日後、社長さまから丁寧な立派なお手紙を戴き、感動した事が忘れられません。

人に対する心遣いを教えて戴き、今も心の中で大切に、人に対する心遣いを守っています。本当に有りがとうございました。心より御礼申し上げます。

K・Y (福山市)

自分で作った竹輪

備後ふる里を離れて、大阪に住むこと早や五十年以上になります。八十路を過ぎた今でも帰郷を続けております。

もうかなり昔のことですが、輛の町をゆっくり散策した

折に、貴館・鯛匠の郷でオリジナルの竹輪を作る体験をさせて貰い、亡き母と孫たちと一緒に大喜びして賞味したあの時の情景を思い出しています。

今も実家へ帰る度に、福山駅の貴店に寄り、土産、贈りものとして求めさせて頂いています。

美味しい味に豊富な種類に、友人・知人から喜ばれ、しかも「あもちん」と云うユニークなネーミングが印象的で素晴らしい――。

T・K (富田林市)

♪あもちんみ♪

今でも阿藻珍味さんの売り場に行くと、ついつい口ずさむ「♪あもちんみ♪」。

言葉にださなけれど、何か強烈なコマースシャルのフレーズがふつと蘇ります。

ところで、その当時出ていた小さいぼくちゃん。聞いてみると、今は副社長になられているみたいですね。

これからも、ますますのご活躍を願っています。

Y・K (尾道市)

尾道ラーメン

若い頃、福山で仕事をしていました。

休みの日は友達とラーメンを食べに、尾道へ車をとばし
て行っていました。その頃は尾道ラーメンといういい方は
なかったと思います。「○○のラーメン（中華そばかもしれ
ません）を食べにいこう。」と。インパクトのある美味い
ラーメンでした。

数年して大阪に帰り、結婚もし、子供たちもすこやかに
育っていた頃、義兄より阿藻珍味の尾道ラーメンが届きま
した。食べてびっくり。尾道で食べていたラーメンを思い
出すような味。家族で美味しくいただきました。

それより、お中元、お歳暮で我が家に届く尾道ラーメン。
子供達も家庭を持ち、盆、暮れには「尾道ラーメンある」
と帰ってきます。親に会うのが嬉しいのではなく、尾道ラー
メンを食べに帰っているような気すらします。

とはいえ、孫達の笑顔がみれるのは嬉しいです。
これからも、ラーメンをすすりながら、ワイワイがやが
や賑やかな家族でありたいと思っています。尾道ラーメン
さん、ありがとう。

K・A（大阪市）

ふりかけ

先日、娘が子ども二人を連れて阿藻珍味でふりかけ作り
の体験をして、自分たちが作った名前入りのふりかけを持っ
て来てくれました。

それはもう大切そうに自分が書いた名前を見せて「ふり
かけかけてあげるよ。いつしよに食べよう。」と家族みんな
に。

孫は五歳と二歳の女の子。私が阿藻珍味でちりめん入り
のふりかけをいつも購入し、ご飯にかけて食べさせていた
ので、孫たちもこのふりかけが大好きで、たった一本の大
切なふりかけをみんなのご飯にかけてくれました。おかげ
で、このふりかけ一本で家族みんなが笑顔に!!「今度は、
ばあばも一緒に作ろうね。また行こうね。」とさそってくれ
ました。

ふりかけ以外にも、色々と体験できそうなので、是非、
孫たちと一緒に参加したいなと思いました。

五歳の孫が書いた二人の名前・・・ひらがなで、つたな
い文字が、一生の宝物になったようです。

A・A（尾道市）

息子から子へ

輛の浦が一望でき、新鮮な出来立ての天ぷら類を貰えるお店ができ、何度か足を運ぶようになり、鯛ちくわづくりやせんべ焼きも体験でき、楽しかったです。

私の息子がちくわ・せんべい焼きを体験した時からダイレクトメールも定期的に届いています。

その息子も今は三十歳。夏に孫が来た時にせんべい焼きを体験させて頂き、ちょー喜んで自分の焼いたせんべいを離さず、にぎりしめて持つて帰ったのを思い出します。

息子から子へ引きつがれていっています。

主人の弟（大阪在中）は夏と冬に帰省しますが、行く所がなかなかなく「ちくわやせんべいの体験ができるよ」と一度連れて行った事があります。近場で楽しめるのはとてもいいです。

輛まで足を運ぶのが難しい時は松永店に買いに行きます。便利なので助かっています。天ぷらは一枚から買えるので、ししゃも天とからし天は私のお気に入りです。

これからも新商品、お手頃価格で、楽しみに待っています。よろしくお願ひ致します。

Y・H（尾道市）

おみやげ

阿藻珍では、今までちくわの体験、せんべいを焼いたり。大阪から旅行で来た妹の子供と私たち、大人四人、子供五人とわいわいがやがや楽しい一日を過ごしました。

イカや魚がはさまれ、スカートのように回っているのが珍しく、一夜干しの乾燥だと言われ、不思議に思ったりしました。

子供たちは今や成人。福山に来ると輛へ行こうと言って、干物や練り物を買って帰る。この時期は冷麵がさっぱりとしてとてもおいしいと言います。

私たちも時折そちらに出向き、冷麵を頂いて帰ったり、窓越しの輛がとても癒されます。

今では輛まで出かけることより、松永で買っています。こちらでも品物は揃いますが、また主人と食事をしながら輛の海を眺めてゆつくりしたいと思います。

これからも新商品、目新しい物、おいしい味で色々お知らせ下さい。よろしく。

近々、大阪に行きます。私たちを待っているのではなく、阿藻珍のおみやげですかね？

I・M（福山市）

思い出

令和元年五月十九日、義母（九十六歳）が永眠いたしました。義母の三人の息子たちも義母より先に逝って、私の主人が三番目の息子でした。足が悪く、なかなか仏壇にもお参りができず、やっと去年の春の彼岸に来てくれました。

その後、阿も珍に行き、昼食を一緒にいただきました。いつも家で雑炊ばかり食べていたので、その日はうれしそうに煮魚やサラダをおいしそうに食べていたのを思い出します。もつといっぱい連れて行ってあげれば良かったと思います。阿も珍のちーいか天、大好きです。

N・K（井原市）

太鼓隊

何のイベントか忘れたけれど、今から三十数年前、天満屋から市民会館（現・中央図書館）につながる久松通りのかどかどで、威勢のいい太鼓の音が響き渡っていました。

聞いてみると阿藻珍味さんの社員さんとのこと。なぜ珍味屋が太鼓をたたいているのかと疑問を感じたのを覚えて

います。汗いっぱい、片肌を脱いで、踊るように、勇壮に太鼓をたたく人達は、阿藻珍太鼓隊という若さいっぱいの集団でした。

その時の太鼓の音はいまでも脳裏に残っています。

F・Y（福山市）

父と屋根上の猫

数年前、一周忌法要をかねておじやりました。

④の日よけのれんに迎えられ、ロビーに入ると野趣溢れる生け花の向こうに広がる瀬戸内海。そして、亡き父が勘違いした、屋根に魚をくわえた猫のオブジェ。

「おいおい、猫が魚をくわえて海から帰って来てるぞ。」
と言って興奮気味でした。

私達はそれを作りものとわかっていたけれども、何度も阿藻さんに伺いましたが、いつもあまりにも父が見てはしゃいでいたので、亡くなるまで内緒にしていました。父が好きだった阿藻珍味さんから見ると景色は、在りし日、父と一緒に見ていた風景とかわらず、穏やかでした。

T・S（府中市）

注文と違うものがきた

ある日、阿藻珍珠さんより注文と違う商品が届きました。何十年も阿藻さんの商品を頼んでいて初めてのことでした。

間違つて配達された商品のことを電話で伝えると、その日の夕方、「ごめんください。阿藻珍珠です。この度は申し訳ございませんでした。」と注文した品物を持って三次まで訪ねてきてくれました。

丁度一人きりの夕食時、その対応の早さや丁寧な対し方に、「上がつてビールでも飲んで行く？」と、嬉しくなつて誘いました。

「あの一・・・」。

その担当者のちよつぴりうれしそうに、少し困つた顔をして帰つていった時のことを、懐かしく思い出します。

S・S (三次市)

ちくわをのぞけば絵画展

先月、子供をつれて家族で阿藻珍珠さんを訪れました。

ロビーより食遊館におりる階段に掛けてあるちくわをの

ぞけば絵画展の入賞作品を指差して、

「パパも小学生のとき、このちくわをのぞけば絵画展で表彰をうけたんよ。」と妻と子供に話しかけながら、ちくわの体験場へ向かつていました。

ちょうどそばに社員さんがおられて、私達の話聞いていて、「そのころの絵はすべて保存していますよ。いつの日か、年代に応じたお披露目の機会をと思つているのですよ。」と言つていただき、十五、六年前の私の絵がまだあるのだと感動しました。

子供ももう少し大きくなつて、ちくわをのぞけば絵画展に応募して、親子で受賞となる日がくればと楽しみにしています。ちくわ体験の楽しい思い出と懐かしい記憶で、うれしい一日をすごしました。

I・F (福山市)

阿藻珍珠さんで思い出すこと

ある日、私のお店に何十年も飾つてあつた書を見て、声をかけてこられたお客さんがいました。

その方は「この書は亡くなった私の父・阿藻實が書いた

ものです。」と言われました。

この書にはいただいた時から落款がない事を告げると、数日後、再び訪ねてこられ、

「もしよかったら父の落款を押しでもよろしいでしょうか。」と言つて、持つてこられた印を押ししてくださいました。

息子さんは輦の浦からわざわざこのためだけにこられたみたいで、うれしい出合いをさせていただきました。

阿藻さんと聞くと、その時のことが懐かしくよみがえります。

K・K (倉敷市)

陰膳

一ヶ月に一回、夫婦で通っていた川口の阿も珍さん。二人でいつも同じものを食べて飲んでいました。

主人が亡くなつてから、お友達としばらくぶりに訪れたお店では、店員さんがきさくに迎えていただきました。

「あつ、きょうは・・・」

主人が亡くなったことを告げ、お料理を注文してしばらくすると、二人のお料理とともに「ご主人にどうぞ。」と主

人の好きだったちーいかの天ぷらを持つてきていただきました。陰膳だったのでしょね。お茶で献杯いたしました。思わぬおもてなしに、ありがたかったです。その節はありがとうございました。

W・M (福山市)

テレビコマージュ

子供会で阿藻珍珠さんのちくわの体験に引率していきました。親子あわせて、総勢二十数名の団体でした。

一目散に向かったのはちくわの体験場。

子供たちはちくわを楽しく握っていました。

と、すると、一人の子が「あ〜もちんみ♪」とテレビコマージュのフレーズを口ずさみました。と、同時にみんなが「あ〜もちんみ♪」。

部屋中、「あ〜もちんみ♪」「あ〜もちんみ♪」の合唱と なつたことを覚えています。

帰りのバスの中でもちくわをかじりながら「あ〜もちんみ♪」の合唱。ほのぼのとした一日をありがとうございました。

K・S (福山市)



あながき

この飾りものは先代社長の阿藻實が残していた包丁です。今から六十年程前の作業場は二百人をこえる女子工員さんたちが働いていました。

鞆の浦の沖合で穫れた小魚を昼夜を問わず、包丁でさばく工員さんたちの姿は「生きているんだ!!」との戦場にも似た凄みがあったのを覚えております。

この工員さんたちの気迫が、今年、創業七十年を迎えることができた礎と確信いたしております。

上の写真の二本のすり切れた包丁。その下のちぎれかかった荷札は先代が書いたものです。

「昭和三十年より五十年までの百丁の内 生涯保存の事」この包丁の精神を忘れるべからず、ということでしょう。

今では額装して応接室に掛けております。

これからも先人たちに恥じぬ様「働きます!!」。
ご指導のほど、宜しくお願いいたします。

阿藻珍味

社長 阿藻盛之

社員一同

阿

藻



趣肴本舗

株式会社

阿藻珍味

本社 広島県福山市鞆町後地1567-1

電話(084)982-3333(代)

珍

味